

防災に関する世論調査＜概要＞

平成18年3月

調査実施の概要

1 調査目的

都民の大地震への不安や防災に関する意識、防災対策への要望を把握し、地域防災計画の改定等、今後の防災対策推進の参考とする。

2 調査項目

- (1) 大地震への不安や備え
- (2) 帰宅困難者
- (3) 災害要援護者
- (4) 地域の防災情報
- (5) 防災市民組織とボランティア
- (6) 都政への要望

3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都全域に住む満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数：3,000標本
- (3) 標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法：調査員による個別訪問面接聴取法
- (5) 平成17年11月17日～12月4日
- (6) 調査実施機関：株式会社 サーベイリサーチセンター

4 回収結果

- (1) 有効回収標本数（率） 2,134標本（71.1%）
- (2) 未完了標本数（率） 866標本（28.9%）

東京都生活文化局

調査結果の概要

※nは回答者数、5 M. A. は5つ選択、3 M. A. は3つ選択
 2 M. A. は2つ選択、M. A. はいくつでも選択
 M. T. は回答の合計をnで割った比率

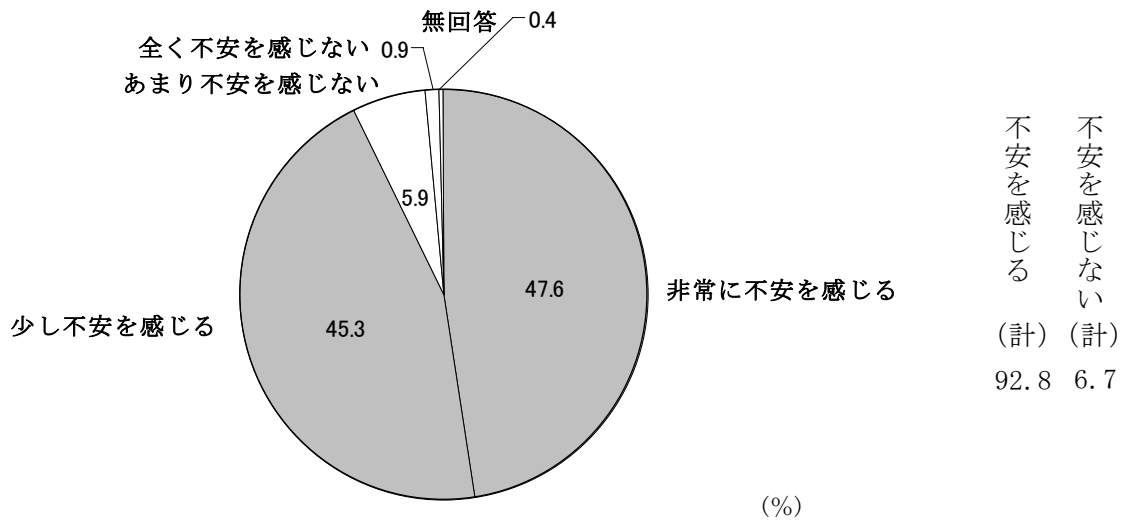
1 大地震への不安や備え

1-1 大地震への不安感

東京で大地震が起こるかもしれないとの不安を感じるかどうかを聞いた。(本文P 3～P 7)

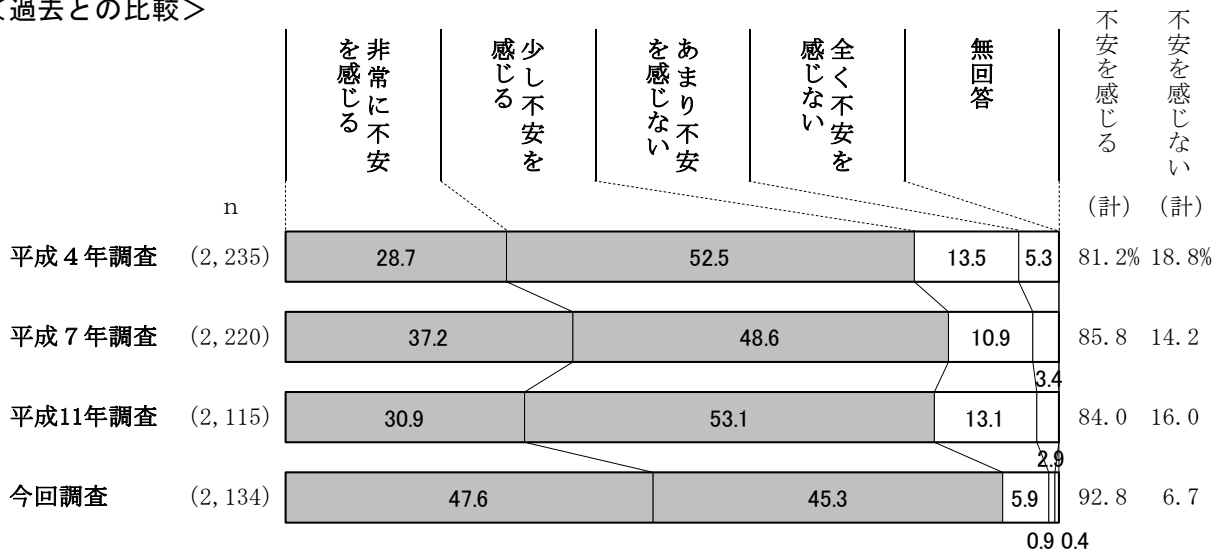
- ◇『不安を感じる(計)』は93% (前回平成11年調査より9ポイント増加)
 特に、「非常に不安を感じる」が48% (前回より17ポイント増加)

(n = 2, 134)



(注)『不安を感じる(計)』は「非常に不安を感じる」「少し不安を感じる」の合計
 『不安を感じない(計)』は「あまり不安を感じない」「全く不安を感じない」の合計

<過去との比較>



(注) 今回調査から選択肢の表現を一部変えている。平成11年までの選択肢は「強く感じている」「少し感じている」「あまり感じていない」「ほとんど感じていない」

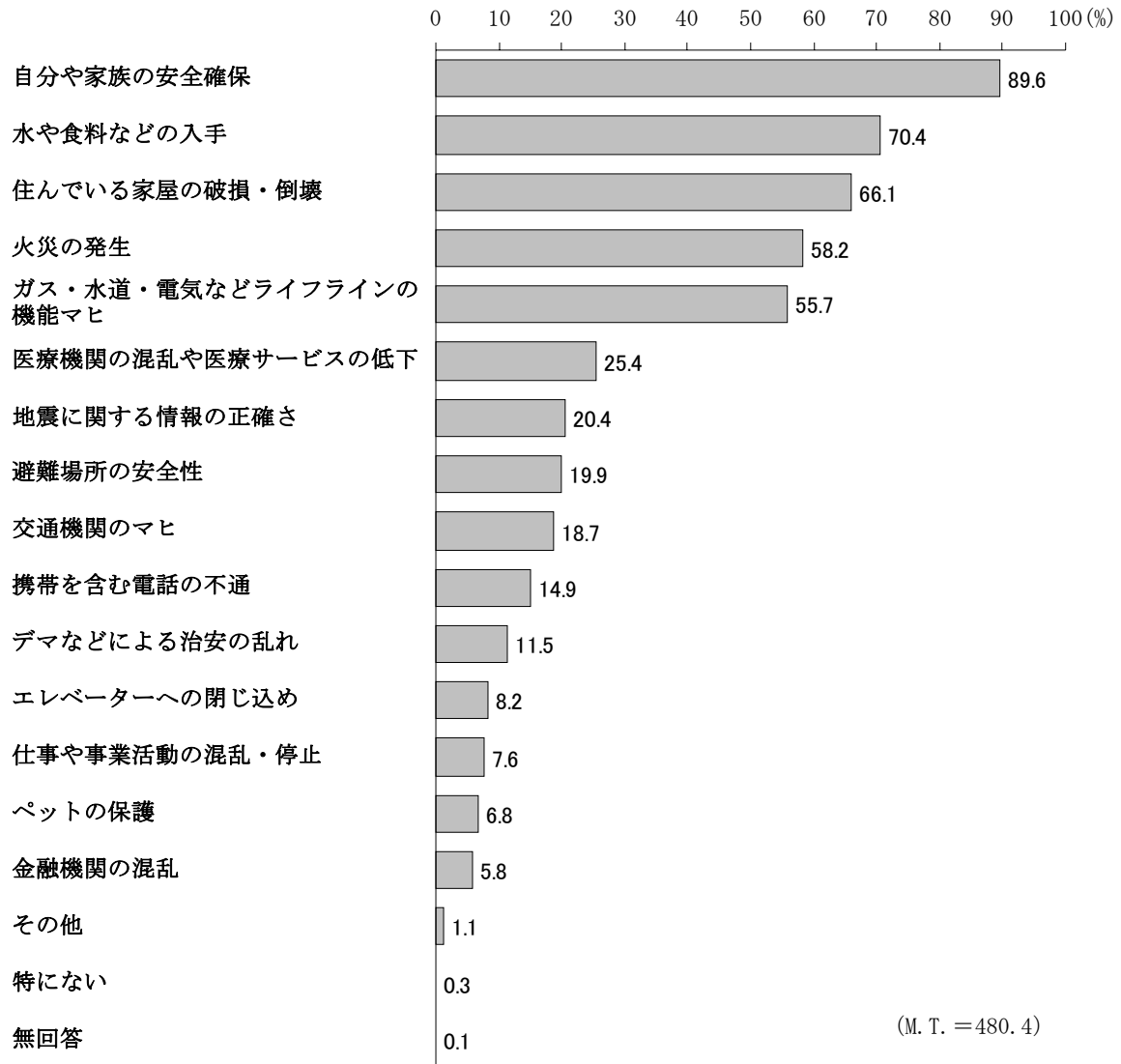
1-2 大地震の際の心配ごと

大地震が起こった場合の心配なことは何かを聞いた。(M. A. 本文P 8～P 10)

◇「自分や家族の安全確保」が90%でトップ

「水や食料などの入手」70%、「住んでいる家屋の破損・倒壊」66%が続く

(n = 2, 134)

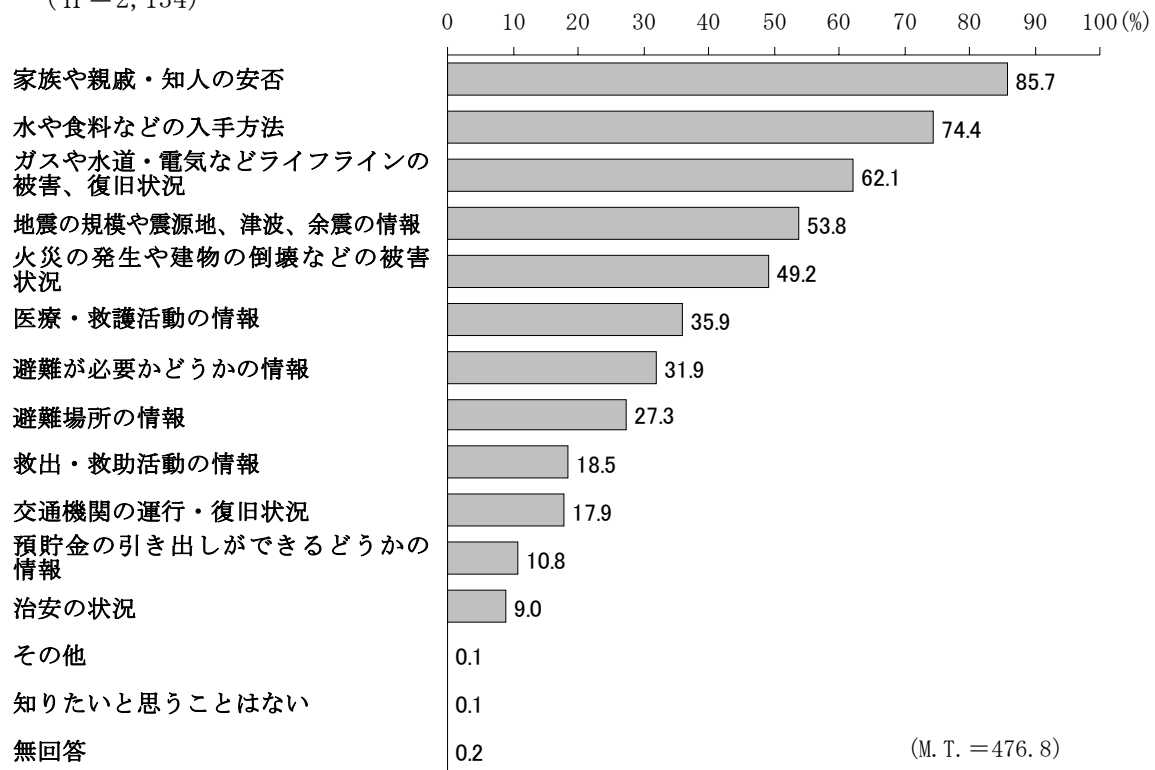


1-3 大地震発生時に知りたい情報内容

大地震が起きた場合に、特に知りたいことは何かを聞いた。(5 M. A. 本文 P11~P12)

◇「家族や親戚・知人の安否」が86%でトップ、「水や食料などの入手方法」74%が続く

(n = 2, 134)

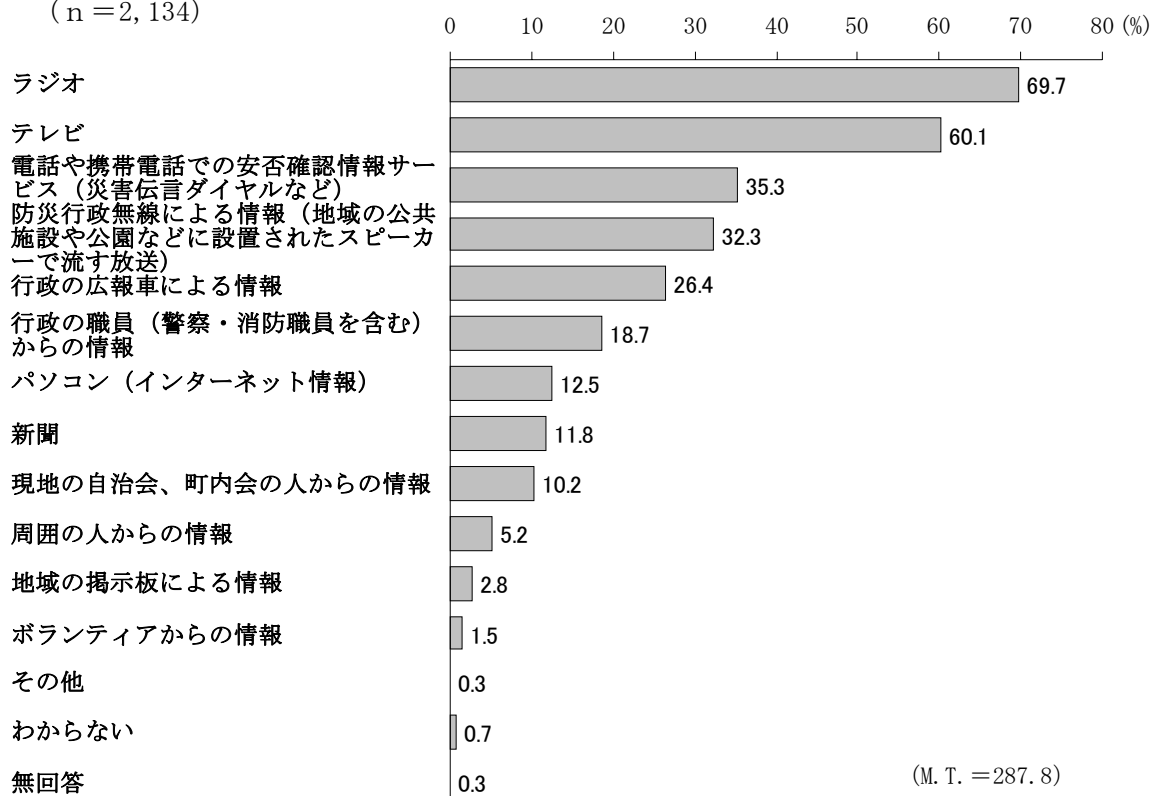


1-4 大地震発生時に頼りになる情報入手手段

大地震の発生時に情報を入手したい方法・手段は何かを聞いた。(3 M. A. 本文 P13~P14)

◇「ラジオ」が70%でトップ、「テレビ」60%が続く

(n = 2, 134)

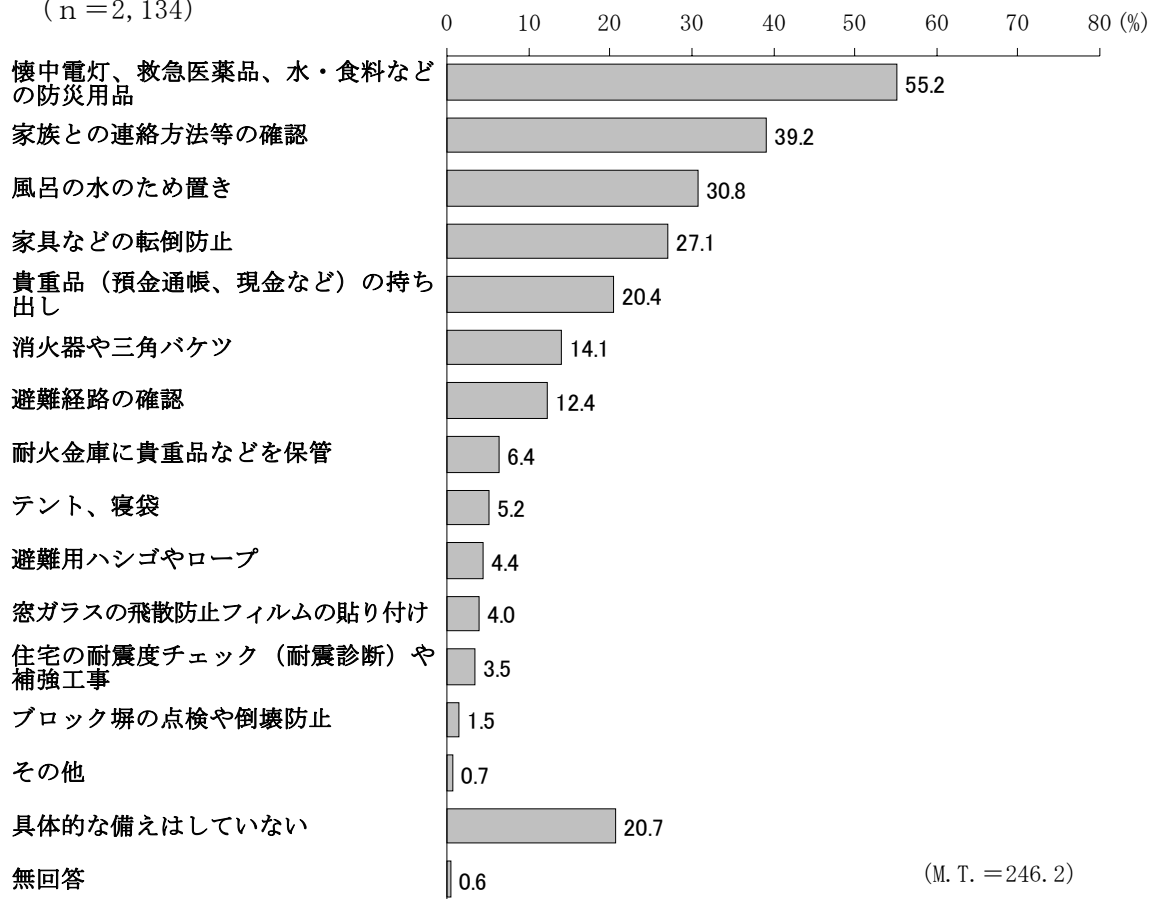


1-5 地震への備え

地震が起こった時のために家庭で日ごろ備えていることを聞いた。(M. A. 本文P15～P17)

- ◇「懐中電灯、救急医薬品、水・食料などの防災用品」が55%でトップ
「家族との連絡方法等の確認」39%が続く

(n=2,134)

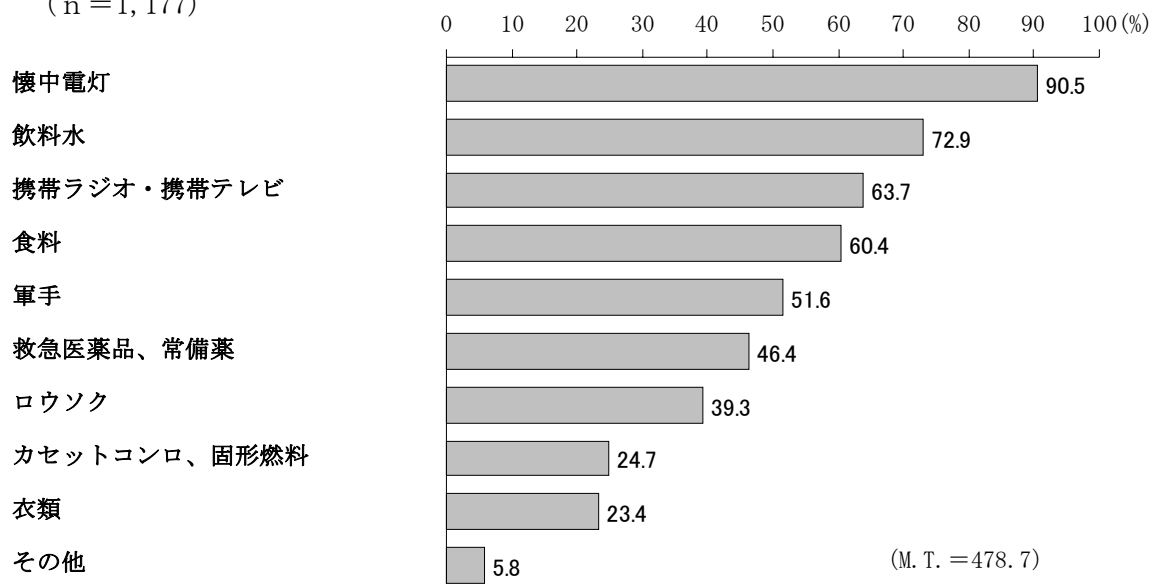


1-5-1 備えている防災用品の内容

前問で防災用品を備えている人（1,177人）に、その内容を聞いた。(M. A. 本文P18～P19)

- ◇「懐中電灯」が91%でトップ、「飲料水」73%が続く

(n=1,177)

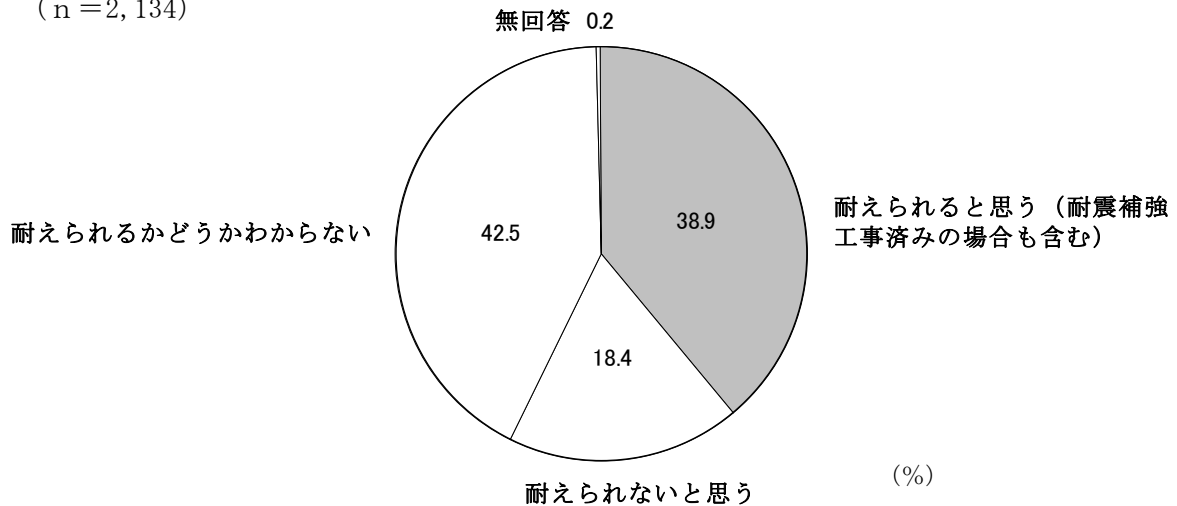


1-6 大地震に耐えられる住宅になっているか

今住んでいる建物が大地震に耐えられると思うかを聞いた。(本文P20～P22)

- ◇「耐えられると思う」は39%、「耐えられないと思う」は18%
「耐えられるかどうか分からない」が43%

(n=2,134)

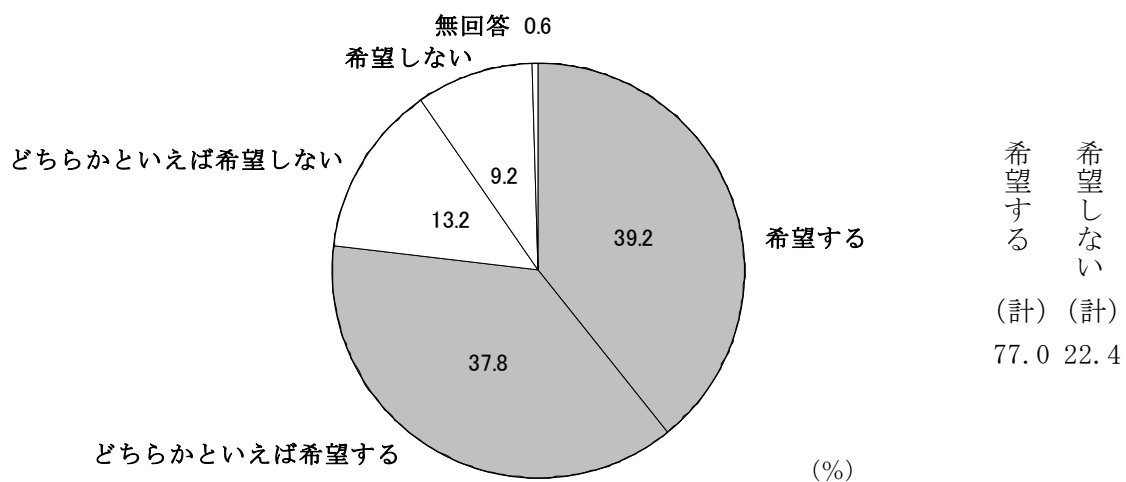


1-6-1 大地震に耐えられる住宅にする希望

前問で「耐えられないと思う」か「耐えられるかどうか分からない」と答えた人 (1,298人) に、大地震に耐えられる強い住宅にすることへの希望を聞いた。(本文P23～P25)

- ◇『希望する (計)』が77%

(n=1,298)

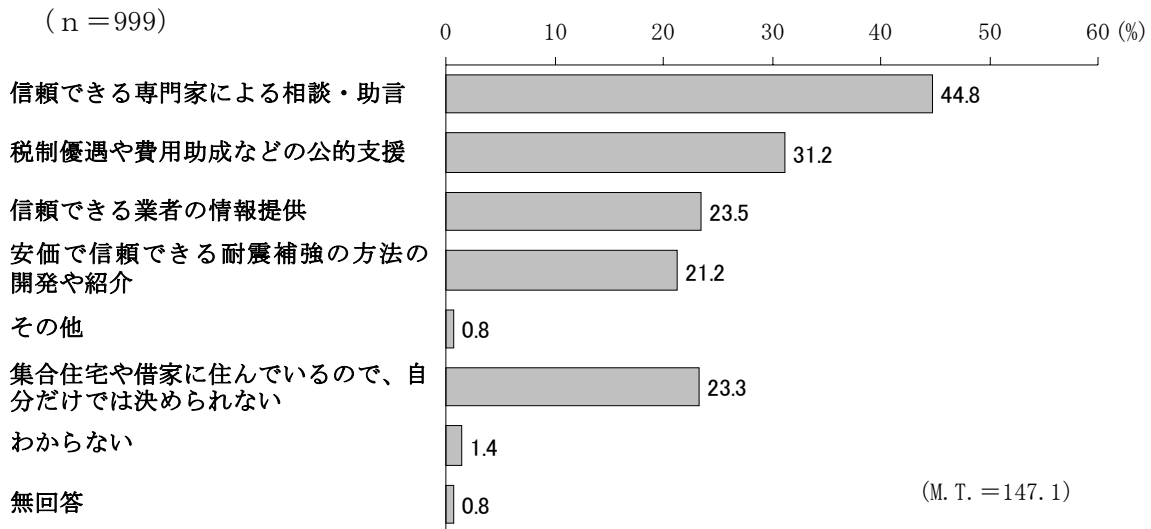


(注) 『希望する (計)』は「希望する」「どちらかといえば希望する」の合計
『希望しない (計)』は「希望しない」「どちらかといえば希望しない」の合計

1-6-2 耐震診断・耐震補強を行う場合の条件

前問で『希望する(計)』と答えた人(999人)に、耐震診断や耐震補強を行う場合の条件を聞いた。
(2 M. A. 本文 P 26～P 27)

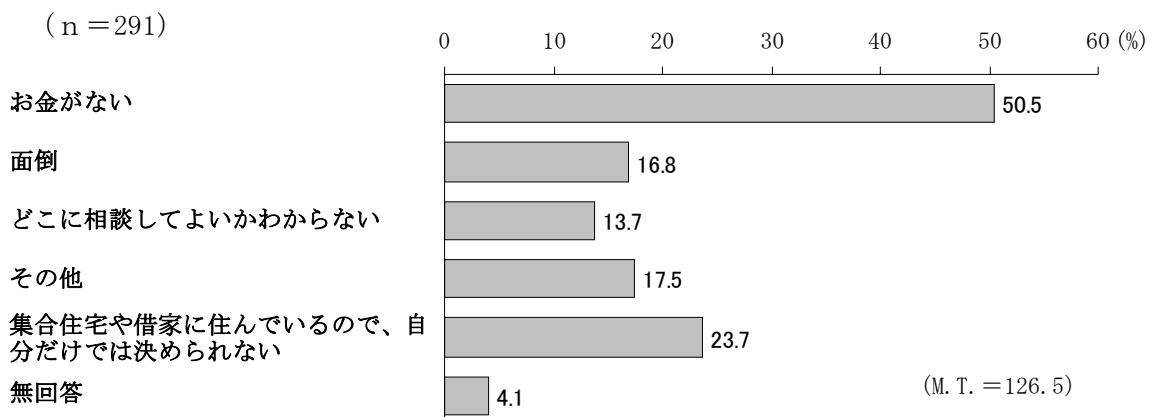
◇「専門家による相談・助言」が45%でトップ、「公的支援」31%が続く



1-6-3 耐震住宅にすることを望まない理由

前々問で『希望しない(計)』と答えた人(291人)にその理由を聞いた。(2 M. A. 本文 P 28～P 29)

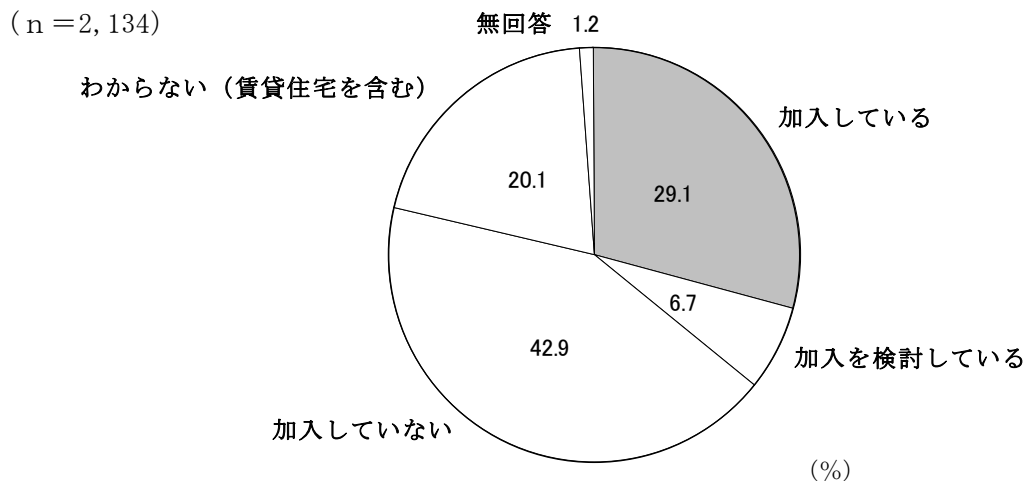
◇「お金がない」が51%でトップ



1-7 地震保険等の加入状況

地震保険、建物更正共済等への加入状況を聞いた。(本文 P 30～P 32)

◇「加入している」は29%



2 帰宅困難者

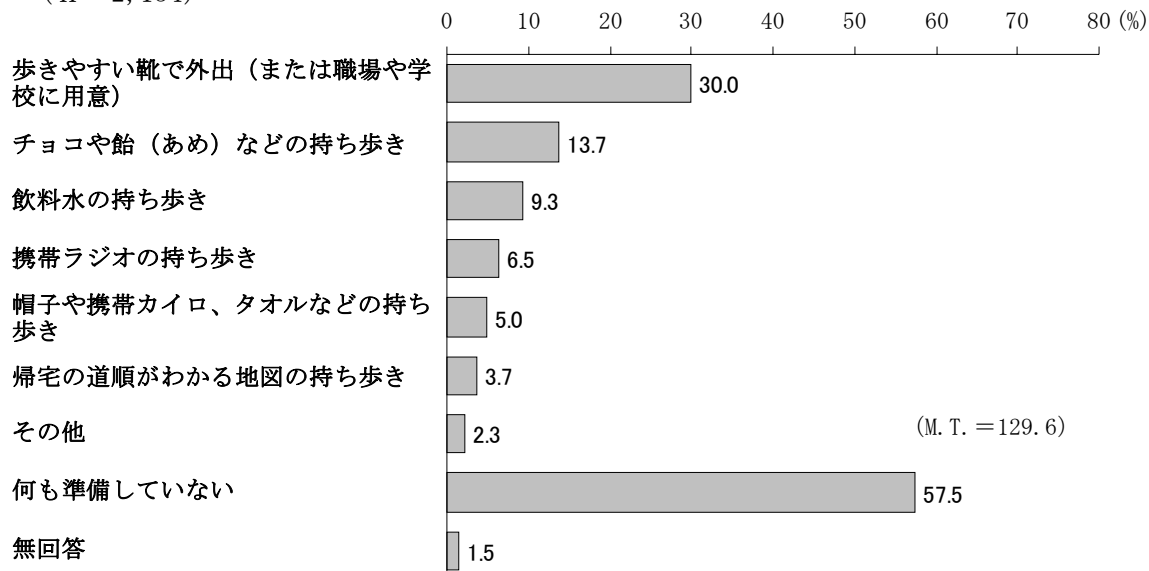
2-1 帰宅困難になった場合の準備

大地震による交通マヒで、帰宅が困難になった場合への備えについて聞いた。

(M. A. 本文 P 33～P 34)

- ◇「歩きやすい靴で外出」が30%、「チョコや飴（あめ）などの持ち歩き」は14%
「何も準備していない」が58%

(n = 2, 134)

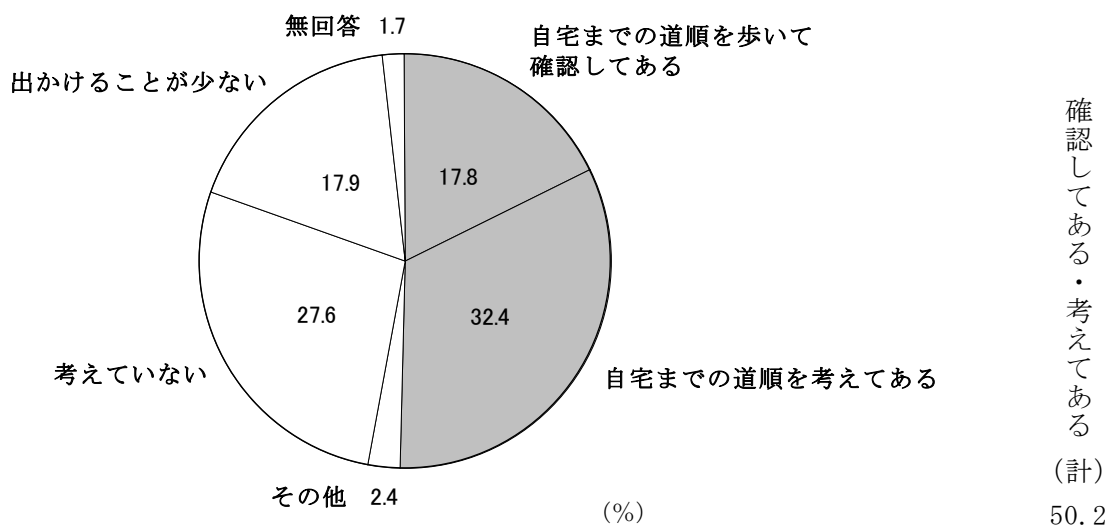


2-2 徒歩による帰宅経路の確認

交通機関がマヒした場合に備えて帰宅経路を確認しているかを聞いた。(本文 P 35～P 37)

- ◇「自宅までの道順を歩いて確認してある」は18%、「自宅までの道順を考えてある」は32%

(n = 2, 134)



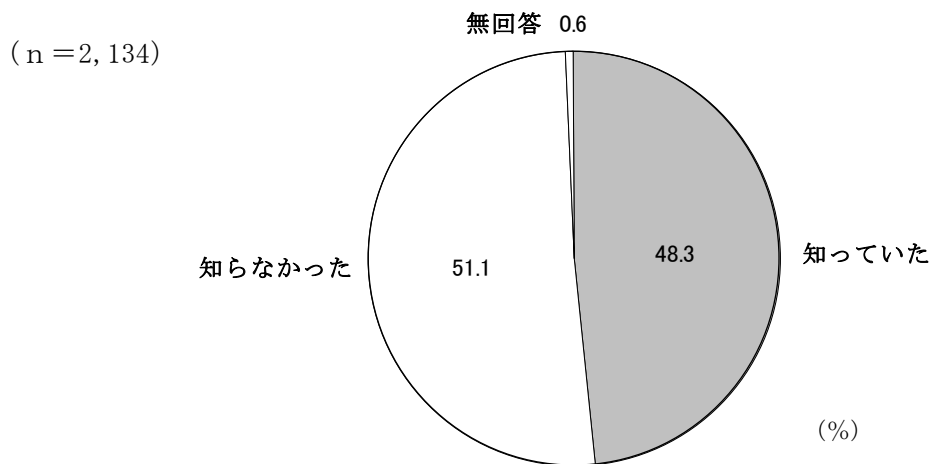
(注) 『確認してある・考えてある (計)』は「自宅までの道順を歩いて確認してある」「自宅までの道順を考えてある」の合計

2-3 ガソリンスタンド・コンビニとの協定による水・トイレ提供の周知度

ガソリンスタンドやコンビニエンスストアとの間で結んでいる支援協定の認知を聞いた。

(本文 P38～P40)

◇「知っていた」は48%

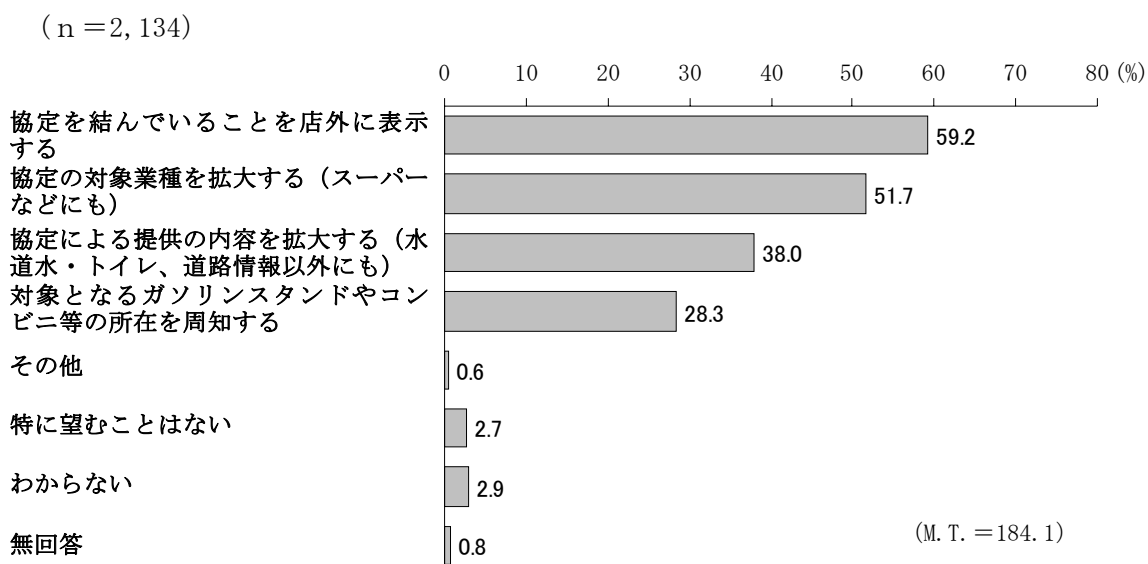


2-4 コンビニ等との協定に関する要望

コンビニ等との支援協定に関連して行政に望むことを聞いた。(2M. A. 本文 P41～P42)

◇「協定を結んでいることを店外に表示する」が59%でトップ

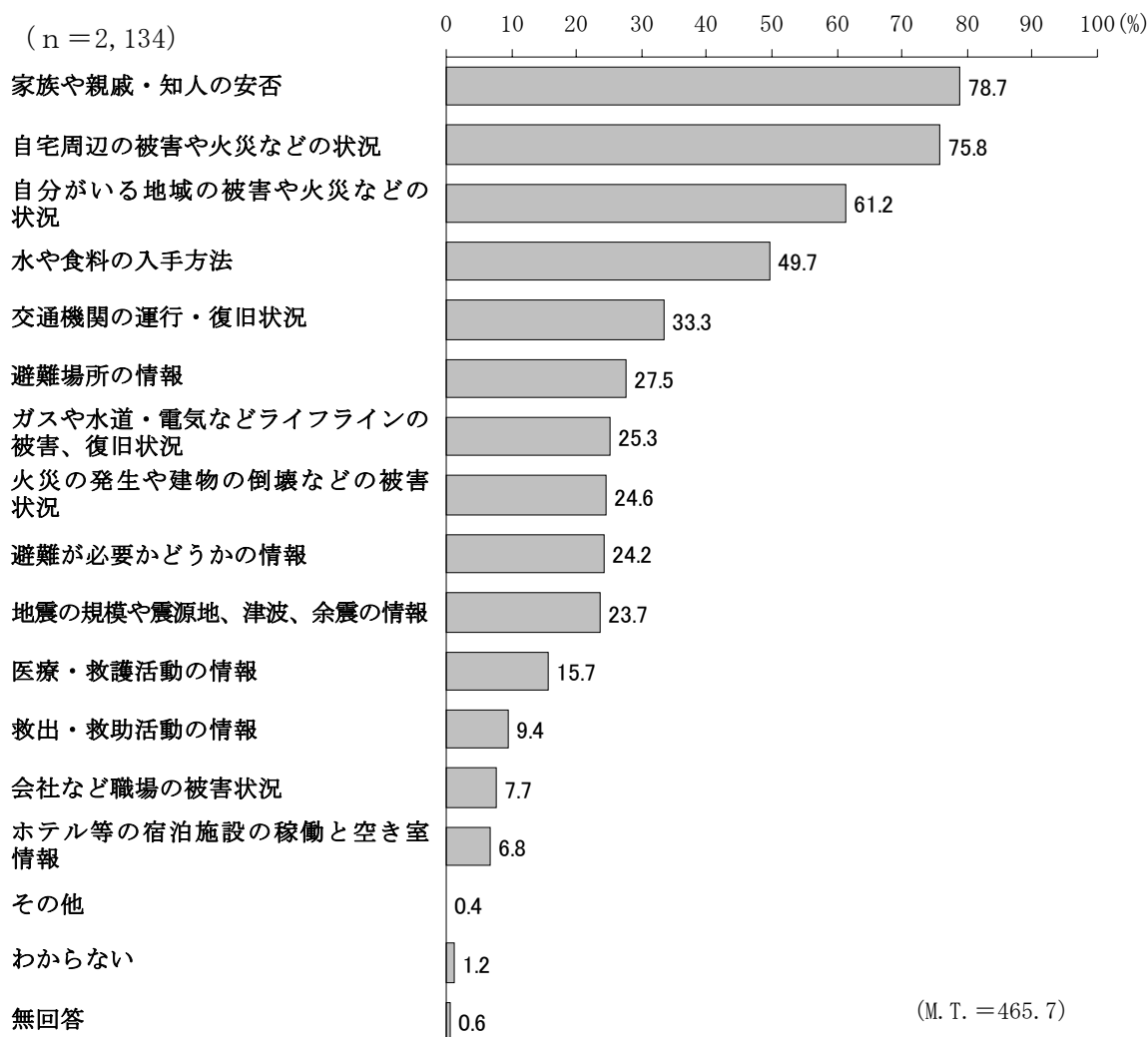
「協定の対象業種を拡大する」51%が続く



2-5 帰宅困難になった場合に知りたい情報内容

大地震で帰宅ができなくなった場合に知りたいと思う情報を聞いた。(2 M. A. 本文 P43~P44)

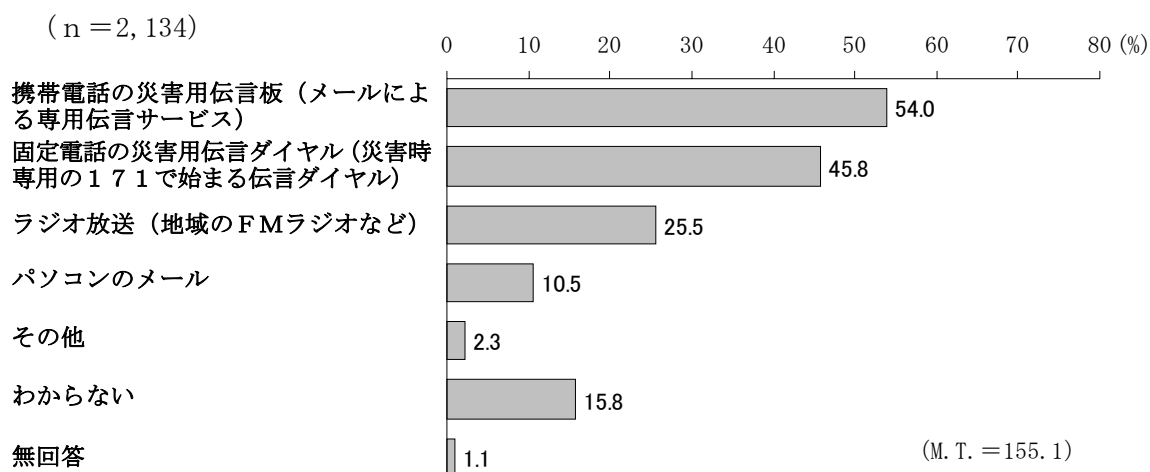
◇「家族や親戚・知人の安否」が79%、「自宅周辺の被害や火災などの状況」76%が続く



2-6 安否確認のための家族との連絡方法

徒歩での帰宅が不可能になった場合の家族との連絡方法を聞いた。(2 M. A. 本文 P45~P46)

◇「携帯電話の災害用伝言板」が54%でトップ、「固定電話の災害用伝言ダイヤル」46%が続く



3 災害要援護者

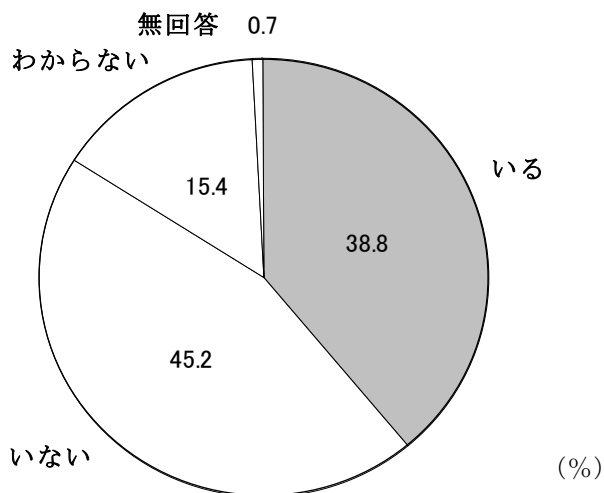
3-1 家や近所での災害要援護者の有無

ひとりで避難することが困難な高齢者などの災害要援護者が家族や近所にいるかを聞いた。

(本文 P 47～P 48)

◇「いる」は39%

(n = 2, 134)



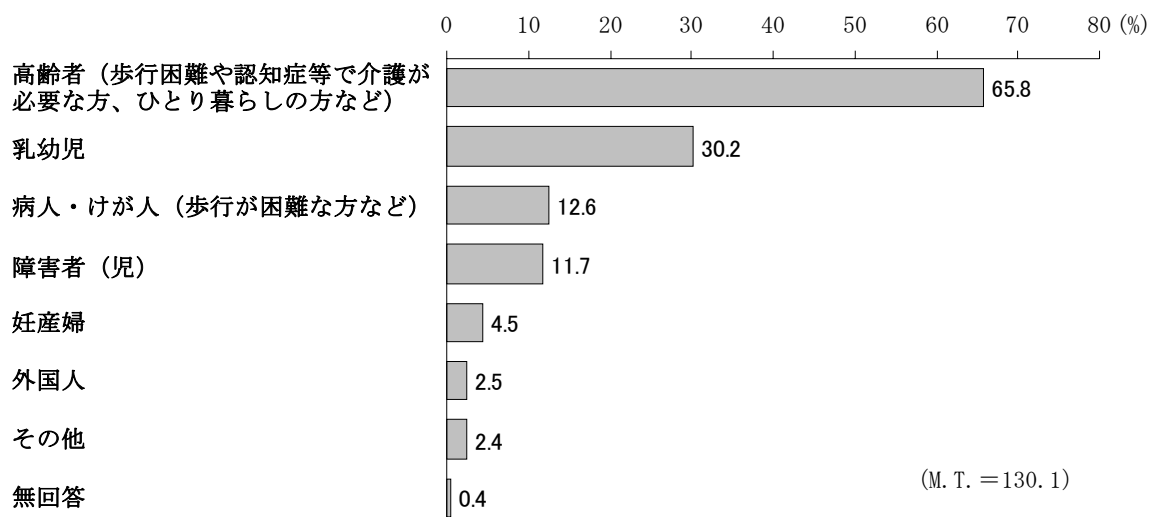
3-1-1 どのような災害要援護者か

前問で災害要援護者がいると答えた人 (828人) に、それはどのような人かを聞いた。

(M. A. 本文 P 49)

◇「高齢者」が66%、「乳幼児」が30%

(n = 828)

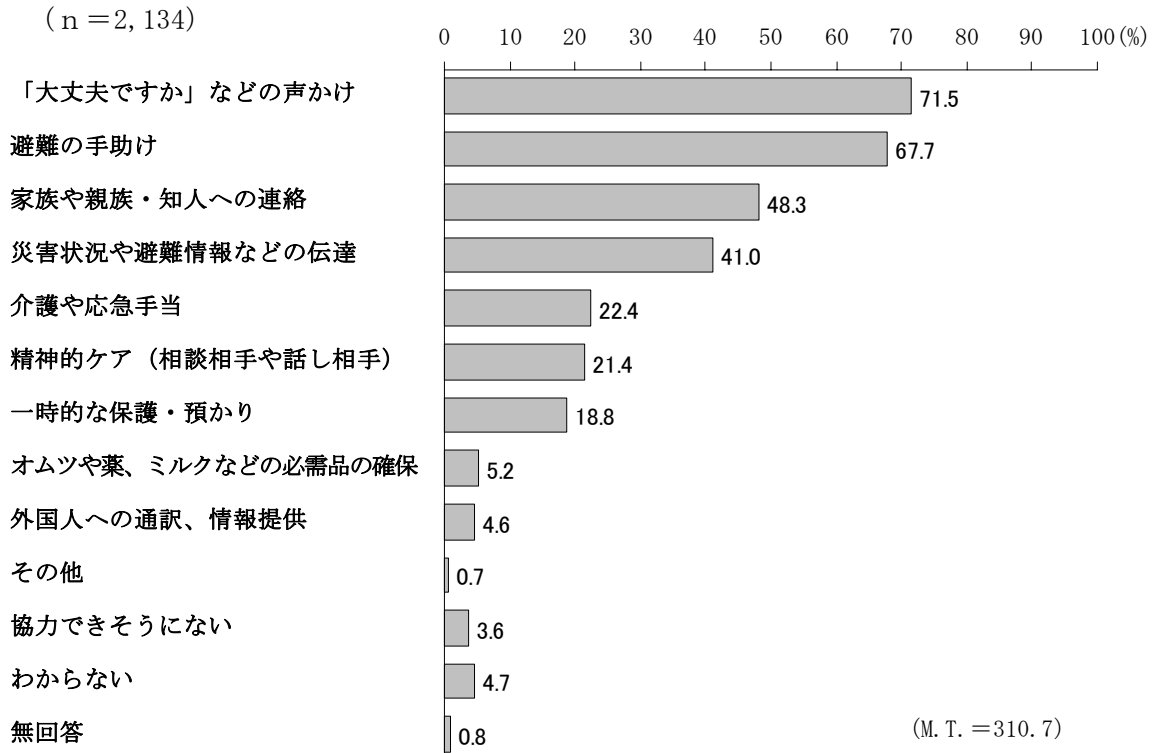


(M. T. = 130. 1)

3-2 災害要援護者に対する協力の意向

災害要援護者に対して協力できそうだと思う内容について聞いた。(M. A. 本文P50～P51)

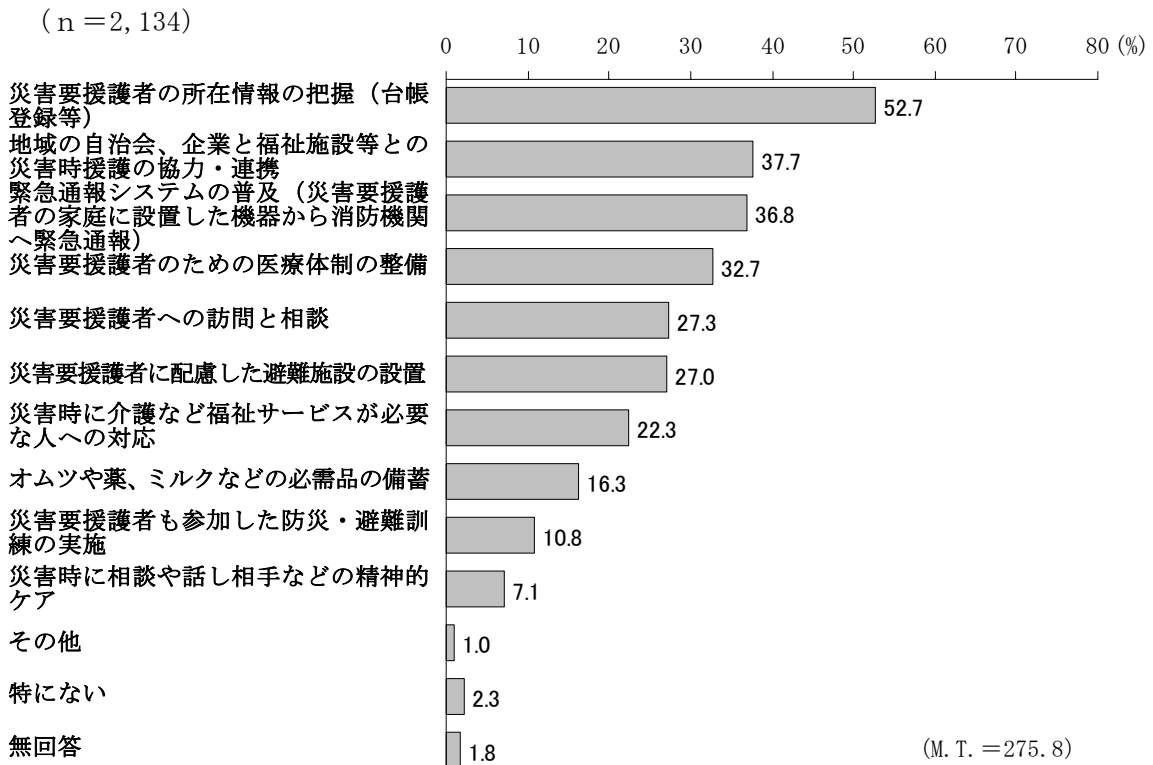
◇『「大丈夫ですか」などの声かけ』が72%でトップ、「避難の手助け」68%が続く



3-3 災害要援護者対策の要望

災害要援護者への対策として行政がやるべきことを聞いた。(3 M. A. 本文P52～P53)

◇「災害要援護者の所在情報の把握」が53%でトップ



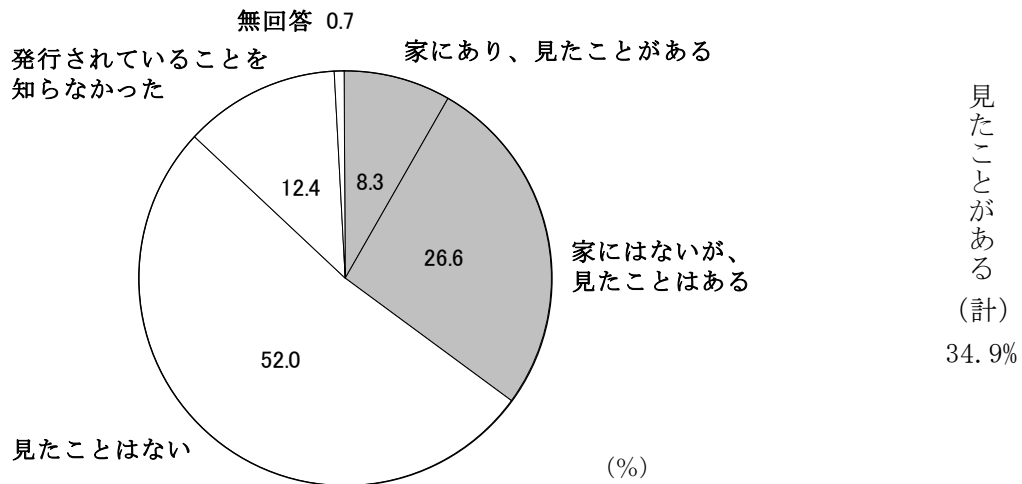
4 地域の防災情報

4-1 地域の災害危険度予測図の周知度

災害危険度の予測図（ハザードマップ）を見たことがあるかを聞いた。（本文P54～P56）

◇『見たことがある（計）』は35%

（n=2,134）



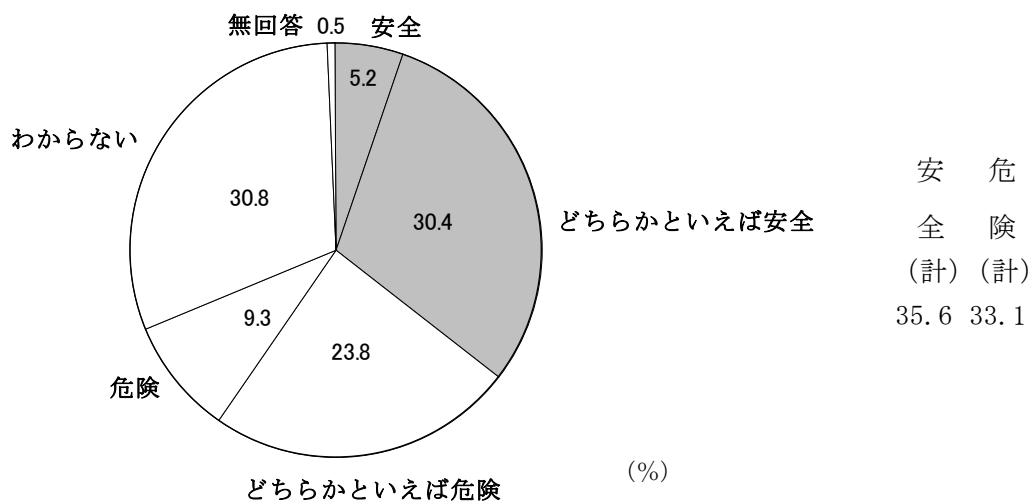
（注）『見たことがある（計）』は「家にあり、見たことがある」「家にはないが、見たことはある」の合計

4-2 地域の安全性の評価

住んでいる地域が地震災害に対し安全と感じているか聞いた。（本文P57～P59）

◇『安全（計）』は36%、『危険（計）』は33%、「わからない」31%

（n=2,134）



（注）『安全（計）』は「安全」「どちらかといえば安全」の合計

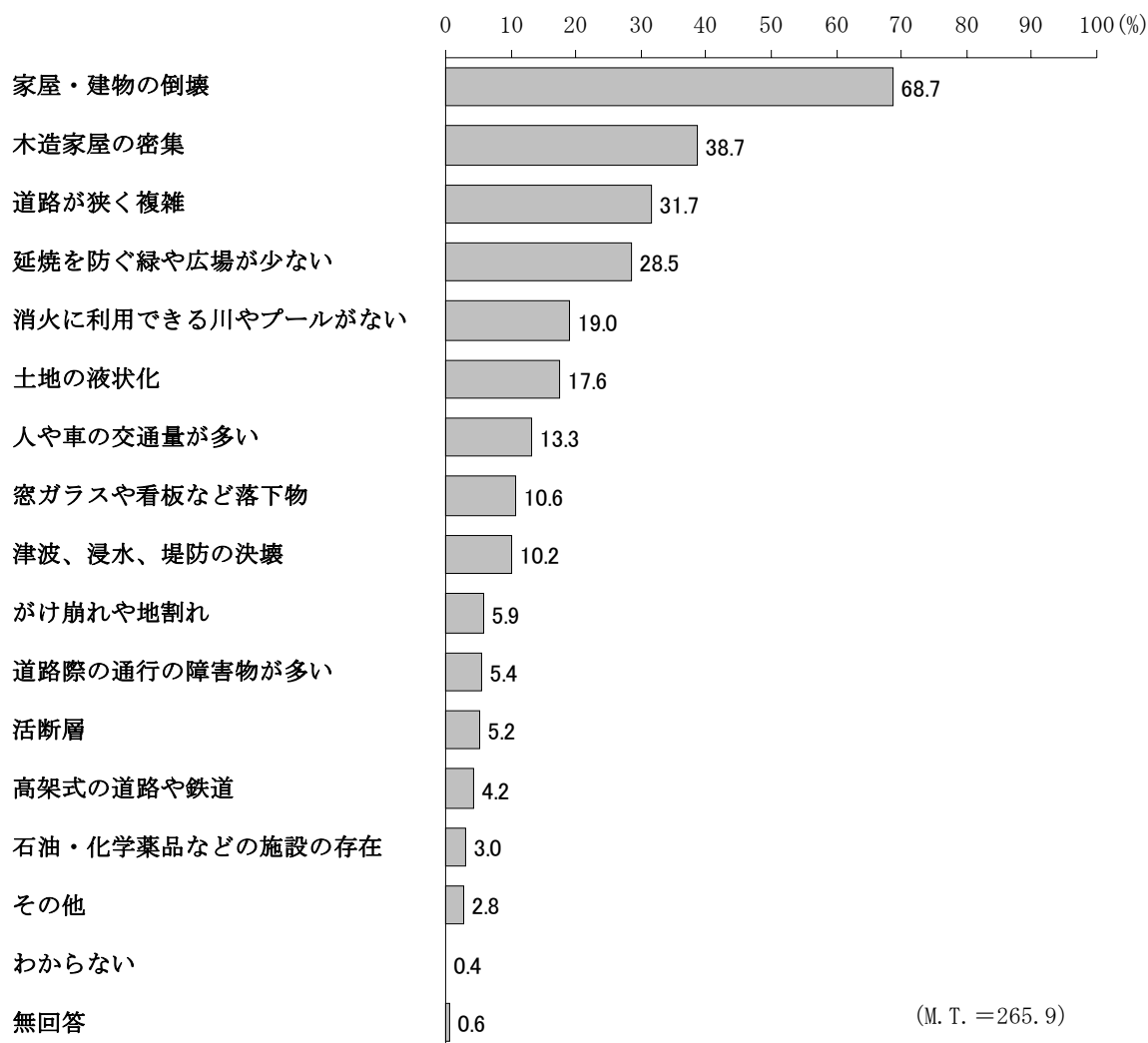
『危険（計）』は「危険」「どちらかといえば危険」の合計

4-2-1 地域で危険と感ずること

前問で『危険（計）』と答えた人（706人）にその内容を聞いた。（3 M. A. 本文 P 60～ P 61）

◇「家屋・建物の倒壊」が69%、「木造家屋の密集」が39%

(n = 706)



< 区部・市町村部別（上位5位） >

(%)

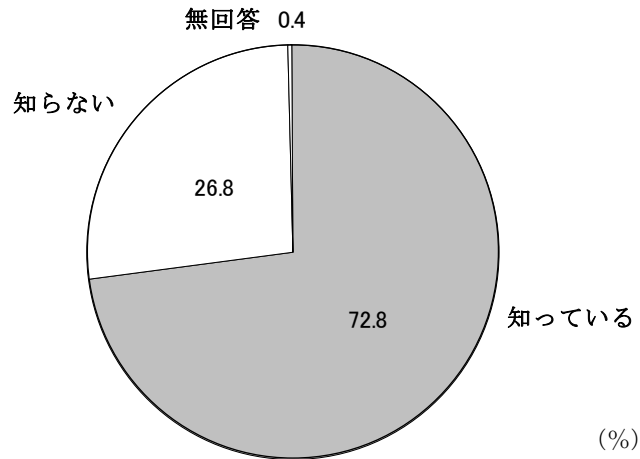
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
区部（計）	581	家屋・建物の倒壊 (68.8)	木造家屋の密集 (41.3)	道路が狭く複雑 (33.9)	延焼を防ぐ緑や 広場が少ない (30.8)	土地の液状化 (19.3)
市町村部（計）	125	家屋・建物の倒壊 (68.0)	消火に利用できる 川やプールがない (28.8)	木造家屋の密集 (26.4)	道路が狭く複雑 (21.6)	がけ崩れや地割れ (18.4)

4-3 避難場所の周知度

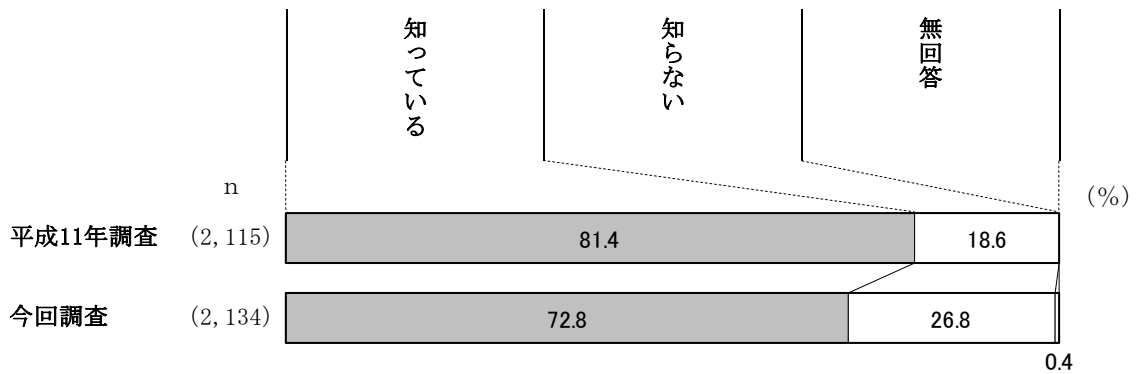
自宅近くで指定されている震災のための避難場所の認知を聞いた。(本文P62～P64)

◇「知っている」は73%

(n=2,134)



<過去との比較>

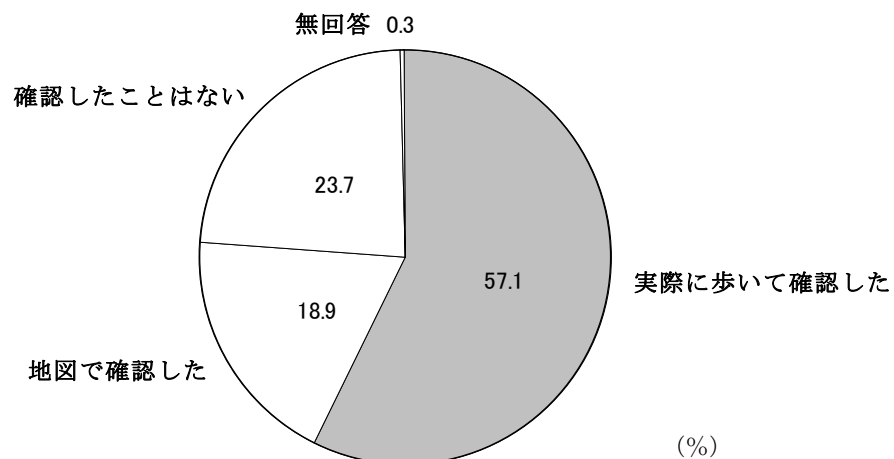


4-3-1 避難場所まで安全に行けるかの確認

前問で「知っている」と答えた人(1,553人)に、その避難場所まで安全に行けるか確認したことがあるか聞いた。(本文P65～P67)

◇「実際に歩いて確認した」は57%、「地図で確認した」は19%

(n=1,553)



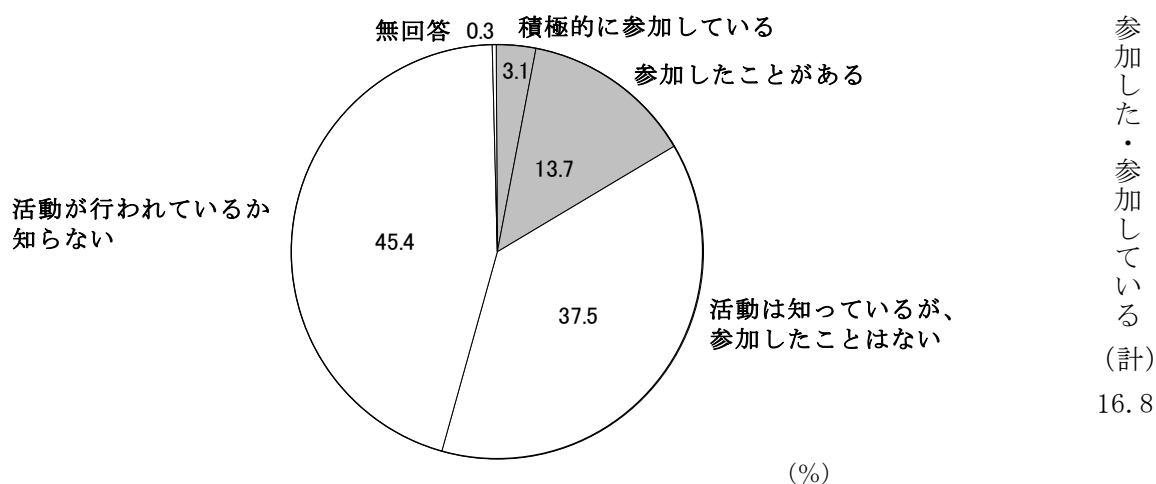
5 防災市民組織とボランティア

5-1 地域における自主的防災活動への参加の有無

地域の自主的な防災活動への参加について聞いた。(本文 P 68～P 71)

- ◇『参加した・参加している(計)』は17%、「活動は知っているが、参加したことはない」38%
「活動が行われているか知らない」が45%

(n = 2, 134)



(注)『参加した・参加している(計)』は「積極的に参加している」「参加したことがある」の合計

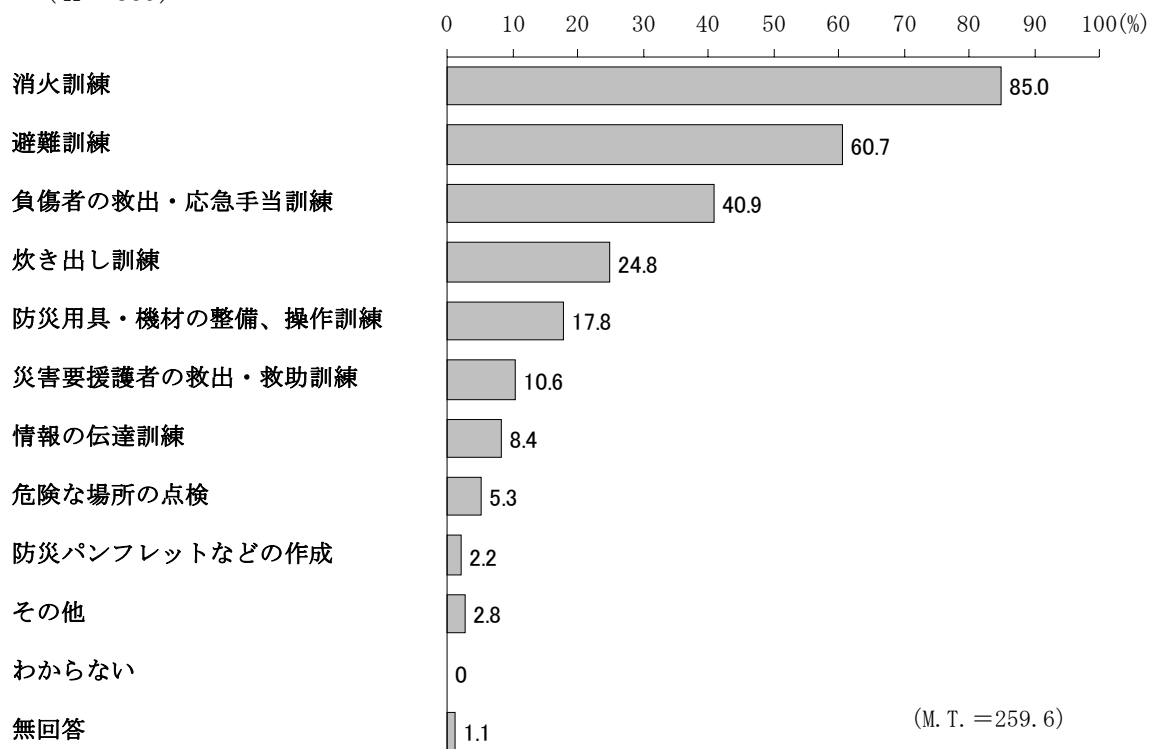
5-1-1 参加している防災活動等の内容

前問で『参加した・参加している(計)』と答えた人(359人)に、その活動内容を聞いた。

(M. A. 本文 P 72～P 73)

- ◇「消火訓練」が85%でトップ、「避難訓練」61%、「負傷者の救出・応急手当訓練」41%

(n = 359)



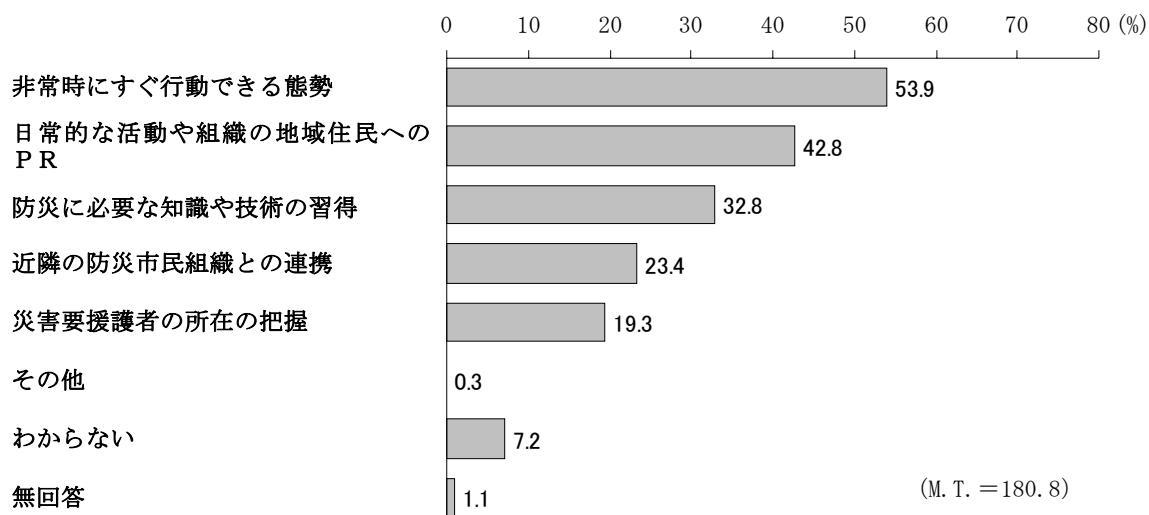
(M. T. = 259. 6)

5-2 防災市民組織の取組に望むこと

防災市民組織が取り組むべきことを聞いた。(2M. A. 本文P74~P75)

- ◇「非常時にすぐ行動できる態勢」が54%でトップ
- 「日常的な活動や組織の地域住民へのPR」43%が続く

(n = 2, 134)

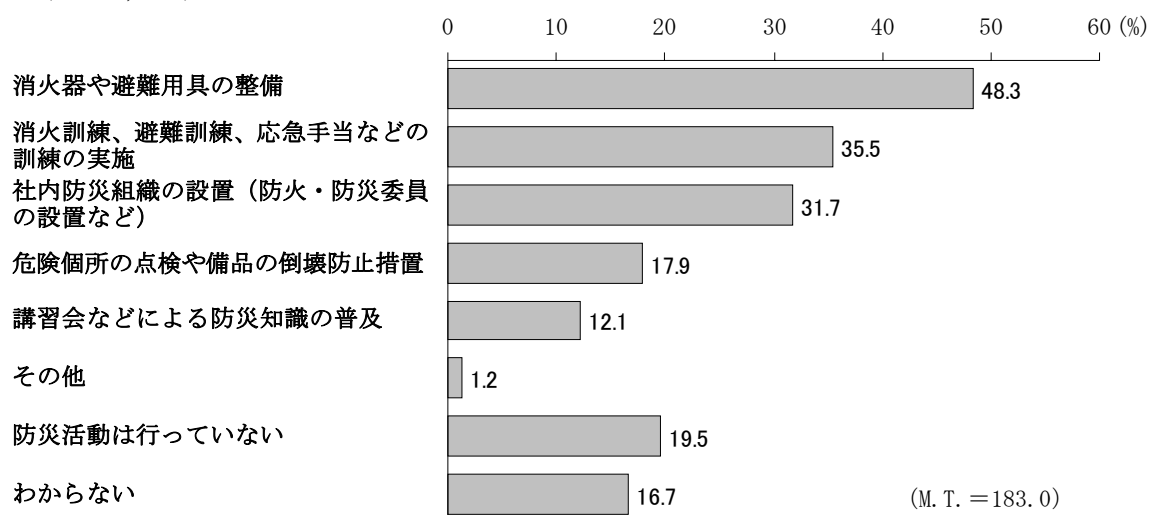


5-3 勤務先の防災活動の内容

自分の勤め先(パート等含む)が行っている具体的な防災活動について聞いた。(M. A. 本文P76)

- ◇「消火器や避難用具の整備」がトップ、「消火・避難訓練、応急手当などの訓練の実施」が続く

(n = 1, 449) ※



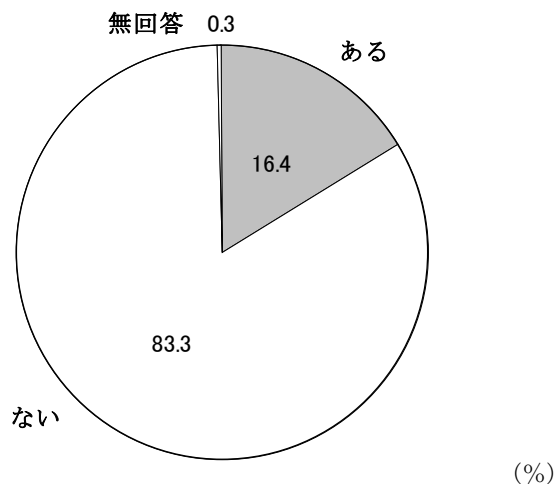
※全体(n = 2, 134)から「勤めていない」と無回答を除いて算出

5-4 ボランティア活動の経験

この3年間でのボランティア活動への参加経験を聞いた。(本文P77～P79)

◇「ある」は16%

(n = 2, 134)



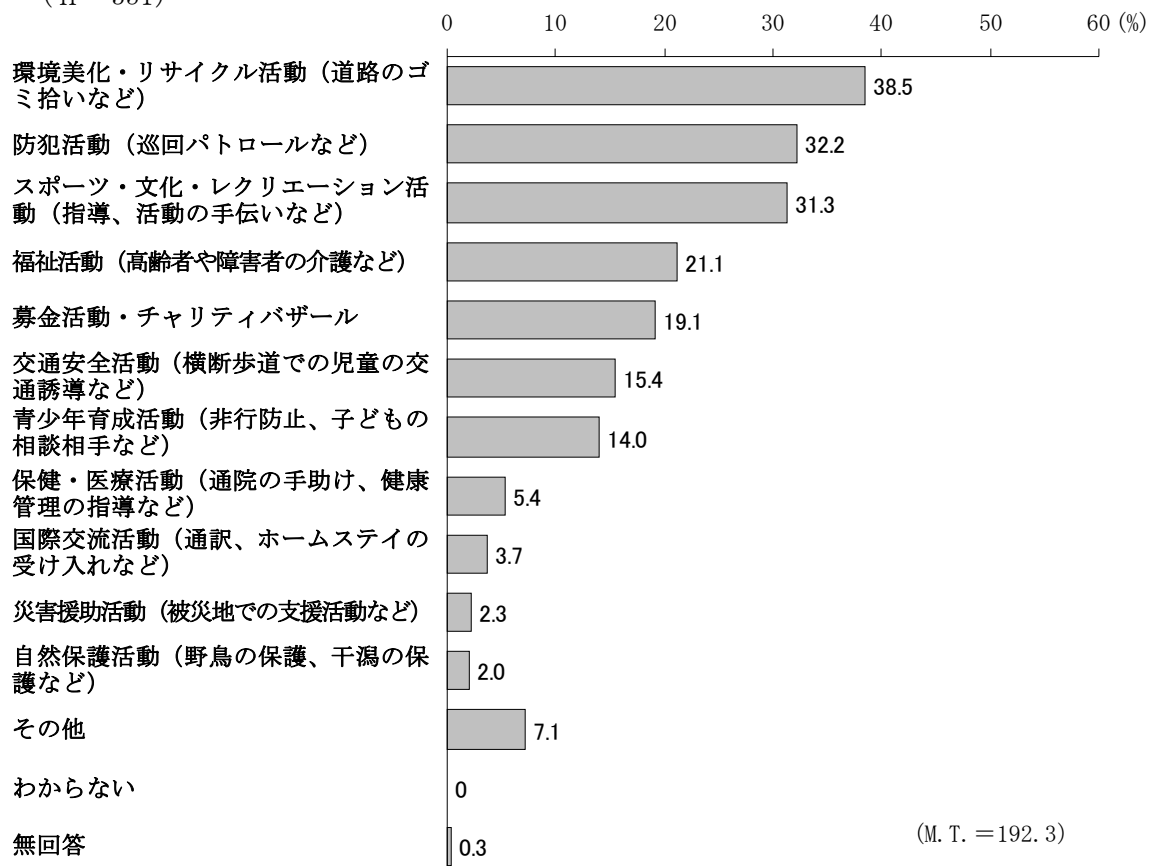
5-4-1 参加したボランティア活動の内容

前問で参加したことが「ある」と答えた(351人)に、参加した活動の内容を聞いた。

(M. A. 本文P80～P81)

◇「環境美化・リサイクル活動」39%でトップ

(n = 351)



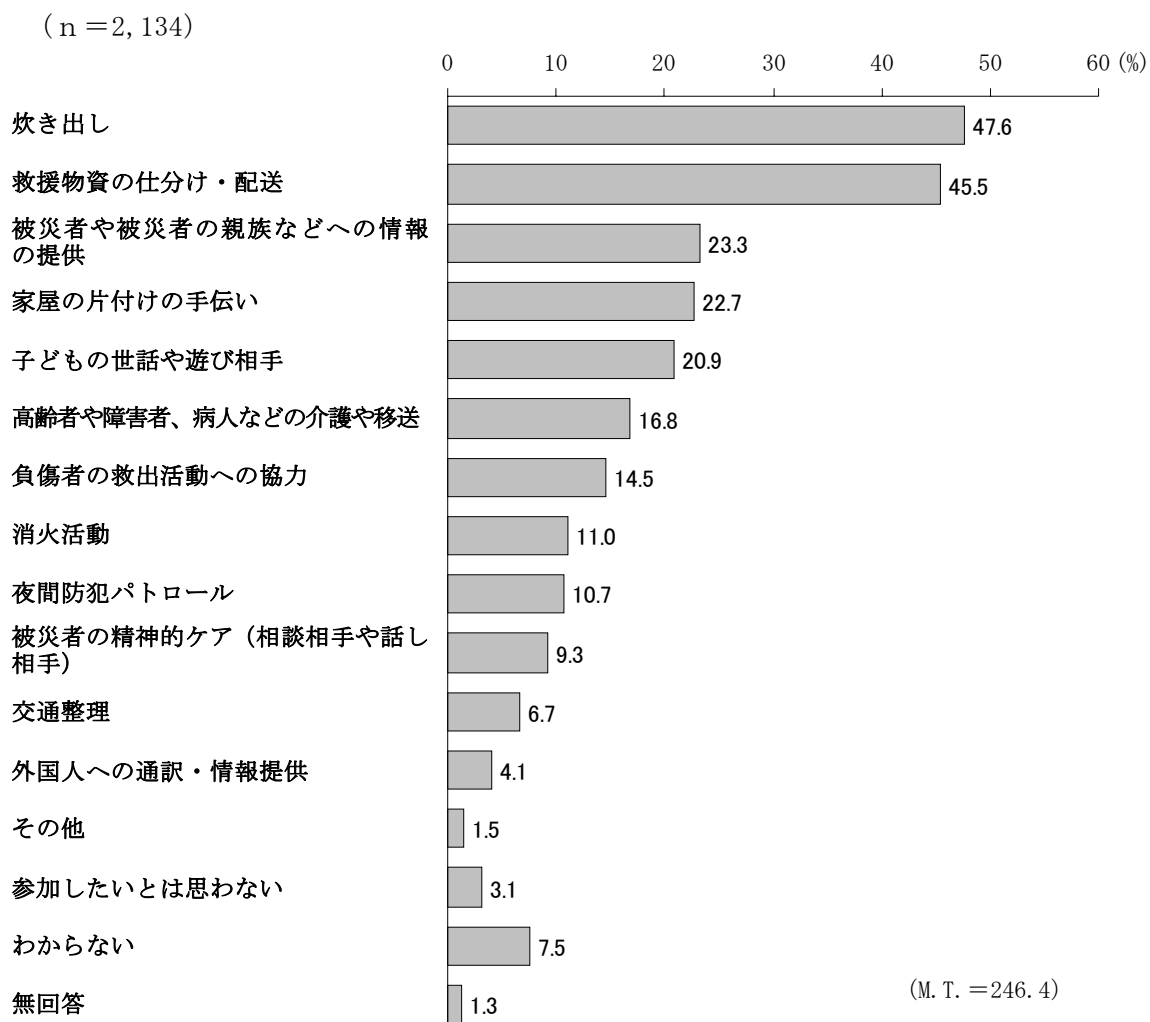
(M. T. = 192. 3)

5-5 震災時に参加してもよいボランティア活動

大地震が発生した場合に、参加してもよいと思うボランティア活動を聞いた。

(3 M. A. 本文 P82~P83)

◇「炊き出し」が48%、「救援物資の仕分け・配送」が46%



5-6 災害時のボランティア活動推進に関する要望

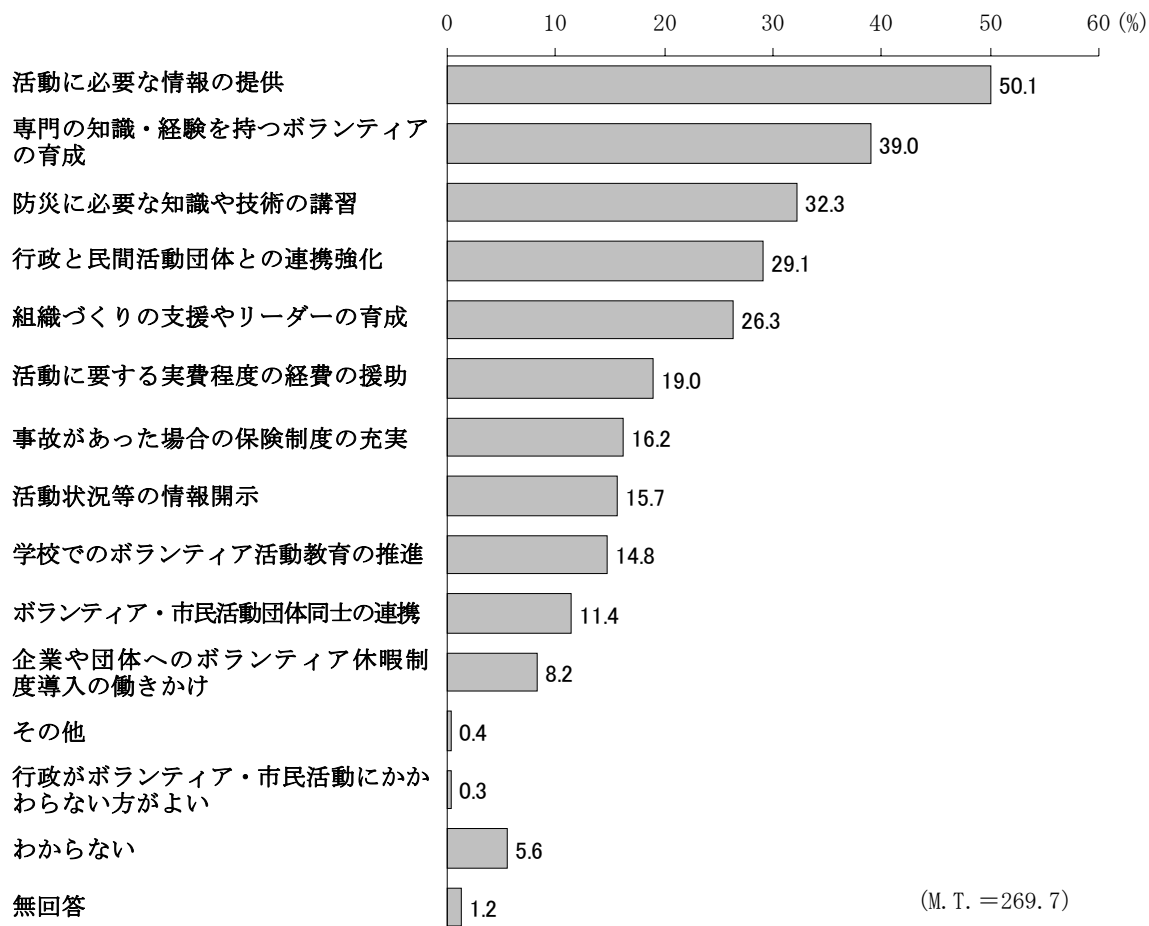
災害時のボランティア活動など市民活動の推進で行政に望むことを聞いた。

(3 M. A. 本文 P 84～ P 85)

◇「活動に必要な情報の提供」が50%でトップ

「専門の知識・経験を持つボランティアの育成」39%が続く

(n = 2, 134)



6 都政への要望

6-1 震災対策に関する都政への要望

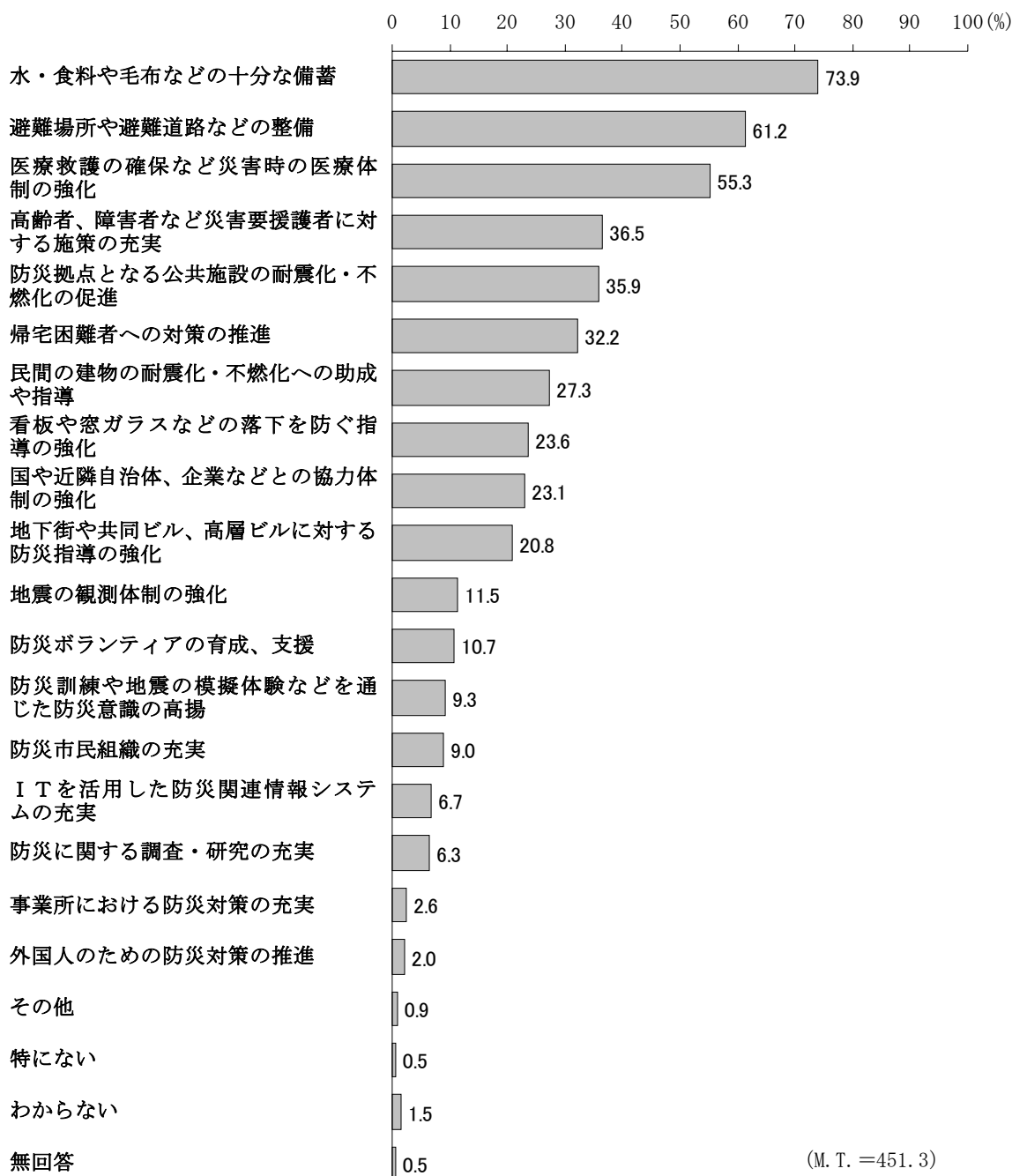
震災対策で東京都に特に力を入れて取り組んでもらいたいことは何かを聞いた。

(5 M. A. 本文P86～P88)

◇「水・食料や毛布などの十分な備蓄」が74%でトップ

「避難場所や避難道路などの整備」61%、「医療救護の確保など災害時の医療体制の強化」55%

(n = 2,134)

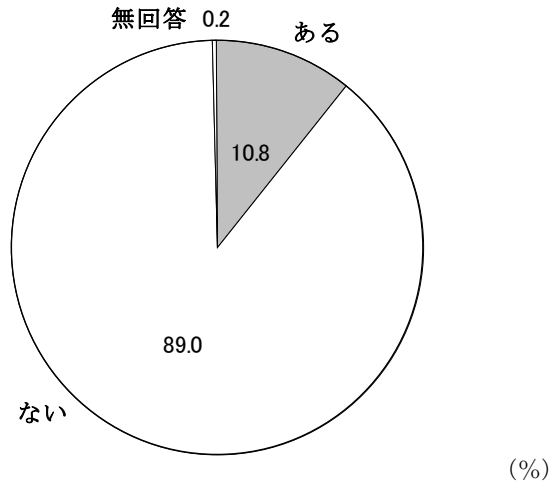


6-2 集中豪雨等の風水害の危険・被害の経験

現在住んでいる地域で、集中豪雨等による風水害の危険を感じたり被害を受けた経験があるかを聞いた。(本文P89～P90)

◇「ある」は11%

(n = 2, 134)



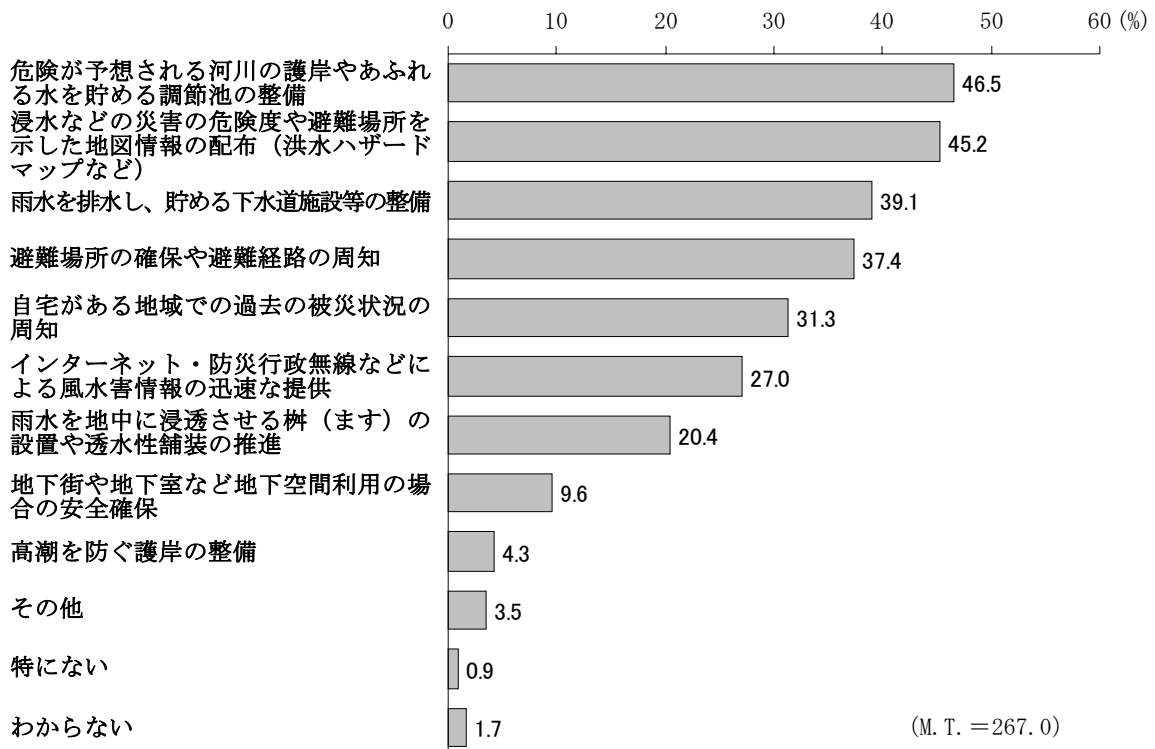
6-2-1 風水害対策に関する行政への要望

前問で「ある」と答えた人(230人)に、集中豪雨時の風水害対策で行政への要望を聞いた。
(3 M. A. 本文P91～P92)

◇「河川の護岸やあふれる水を貯める調節池の整備」が47%

「浸水などの災害の危険度や避難場所を示した地図情報の配布(洪水ハザードマップなど)」45%

(n = 230)



(M. T. = 267. 0)